



## 【目次】

「明日の山口大学ビジョン2030」 マイルストーンについて・・・・・・・・・・	1
教育ビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2
研究ビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7
地域ビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・	12
ダイバーシティビジョン・・・・・・・・・・	16
経営ビジョン・・・・・・・・・・・・・・・・・・	21



## 「明日の山口大学ビジョン2030」マイルストーンについて

山口大学は、<知の創造としなやかな人材の育成により地域に・世界に貢献する山口大学>を目指し、2030年を、そしてさらにその先を見つめて「明日の山口大学ビジョン2030」を策定しました。

この度、「明日の山口大学ビジョン2030」の実現のため、各主要施策に3年ごと（2024年（令和6年）、2027年（令和9年）、2030年（令和12年））に本学の目指す姿・ありたい姿を示すマイルストーンを設定しましたので、ここに公表いたします。

### 【マイルストーンの見方】

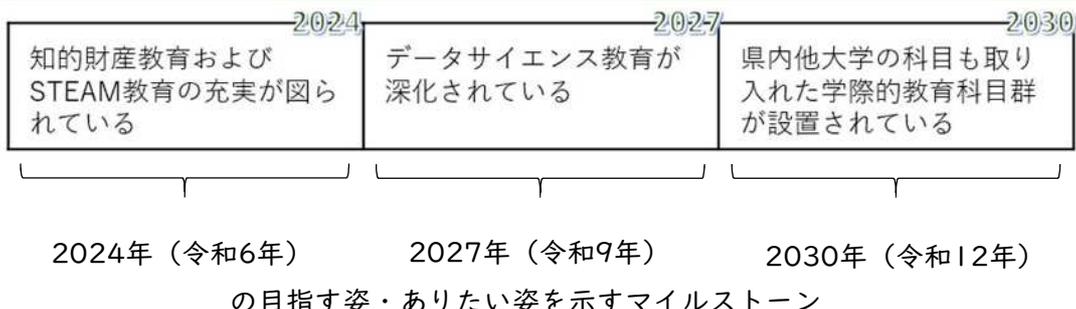
#### 教育ビジョン

既存の学問領域の上に立ちつつ、既成概念に捉われない発想、多様な価値観と深い洞察力を持って、地域社会や国際社会の困難な課題に果敢にチャレンジし、近未来の社会をしなやかに切り拓き、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材を育てます。

#### 重点戦略1：地域社会や国際社会で活躍する人材の育成

##### 主要施策①：教養教育から専門教育まで一貫した学士課程教育の充実

Society5.0に向けて人間性豊かな人材を育成するために、本学の特色であるSTEAM教育、データサイエンス教育、知的財産教育を充実させます。また、既存の概念や学問領域の枠に捉われることなく、学際的教育やDX教育を展開し、柔軟な学士課程の教育の充実を図ります。



## 教育ビジョン

既存の学問領域の上に立ちつつ、既成概念に捉われない発想、多様な価値観と深い洞察力を持って、地域社会や国際社会の困難な課題に果敢にチャレンジし、近未来の社会をしなやかに切り拓き、Society5.0の実現に貢献する人間性豊かな人材を育てます。

### 重点戦略1：地域社会や国際社会で活躍する人材の育成

#### 主要施策①：教養教育から専門教育まで一貫した学士課程教育の充実

Society5.0に向けて人間性豊かな人材を育成するために、本学の特色であるSTEAM教育、データサイエンス教育、知的財産教育を充実させます。また、既存の概念や学問領域の枠に捉われることなく、学際的教育やDX教育を展開し、柔軟な学士課程の教育の充実を図ります。

2024	2027	2030
知的財産教育およびSTEAM教育の充実が図られている	データサイエンス教育が深化されている	県内他大学の科目も取り入れた学際的教育科目群が設置されている

#### 主要施策②：ICTを活用し国内外大学と連携した柔軟かつ多様な教育プログラムの提供

幅広い視野を持って地域社会や国際社会に貢献する人材を育成するために、ICTを活用しつつ、国内外の大学間連携により人的・物的資源を最大限に活かし、柔軟性のある学びの場と多様性に富んだ教育プログラムを提供します。

2024	2027	2030
国際共創教育プログラムが拡充されていると共に、「文系DX人材」の育成の基礎が築かれている	国際的コミュニケーション能力が高められ、「文系DX人材」の育成が開始されている	SPARC教育プログラムが国内外の大学へ提供されている

#### 主要施策③：SDGsチャレンジの視点による課題探求・解決学習の拡充

近未来の社会を切り拓くしなやかな人材の育成に向けて、SDGs実現の途上で顕在化する諸課題を解決するSDGsチャレンジの視点を取り入れ、多様な人とコミュニケーションを取りながら地域社会や国際社会の特性や課題を理解して探究する課題解決型学習（Project Based Learning、PBL）を拡充します。

2024	2027	2030
近未来社会における課題解決能力向上のための基礎教育が実施されている	「DXPBL」をより幅広い社会課題に対応できるように改善されている	海外の連携大学への「DXPBL」の提供による国際社会の課題解決の取組がなされている



## 重点戦略2：時代の変化に対応した教育環境の整備

### 主要施策④：学修成果・教育成果の把握・可視化による学修者目線の教育DXの推進

学修の質的向上、さらには学修者本位の教育の実現のため、学生自らが学修成果を把握できるよう、AI支援による学習管理システム導入等、教育DXを推進し、教学マネジメントの強化を図ります。

2024	2027	2030
学習者本位の教育環境の基礎ができている	学習者本位の教育環境が改善されている	学修の質的向上が図られている

### 主要施策⑤：FD・SDの充実による学修者本位の教育の質的向上

学修者本位の教育の質を保证するために、FD・SDを組織的かつ体系的に企画・実施し、教職員の教学マネジメント意識の向上、学生の意見や要望を反映した教育手法の修得とスキルアップを図ります。

2024	2027	2030
教学IRを活用したFDの企画・実施がなされている	分野横断的なFD・SDの企画・実施がなされている	階層や対象者別にFD・SDの企画・実施がなされている

### 主要施策⑥：ハイブリッド型授業や電子書籍・教材等の整備による柔軟かつ効果的な教育実施

対面授業と遠隔・オンライン授業の双方の良さを活かし、学内のキャンパス間を繋いだ教育や国内外の大学間連携による教育をより一層推進するため、ハイブリッド型教育や電子書籍・教材等の整備を進め、デジタル技術を駆使して柔軟かつ効果的な教育を実施します。

2024	2027	2030
自宅学習環境の向上が図られている	より幅広いハイブリッド型教育が実施されている	国内外の大学との連携によって、学内にはないコンテンツが学生に提供されている



## 重点戦略3：創造的な人材を育成する大学院教育

### 主要施策⑦：高度な専門性と幅広い学際性を養う大学院教育の推進

社会や環境の世界的変化にしなやかに対応するため、学部との円滑な接続を図り、専門人材の養成目的に即した教育を進めるとともに、学際的な教育を推進して、人間中心の Society5.0における知の生産、価値創造を先導する大学院教育を展開します。

2024	2027	2030
大学院修士課程における学際的専門科目の履修制度が整備されている	大学院修士課程における学際的専門科目履修の実施および博士課程における異分野融合研究の充実がなされている	大学リーグやまぐち関連大学との遠隔講義による大学院修士課程の学際的専門科目展開されている

### 主要施策⑧：多様な学生・教員による学際的・分野横断的「共育・共創」の推進

多様化・複雑化する今日の社会課題を複眼的に捉えなおし、専門分野の横断・融合によって解決を図る資質と能力を持つ人材を育成するために、国内外から研究者や大学院生が集う学際的・分野横断的な教育・研究環境を整備します。さらに、研究科間で相互に講義を提供し、異なる研究科の大学院生・教員との連携による共同研究等の展開を推進します。

2024	2027	2030
大学院生・教員が参加する近隣分野の横断的研究が推進されている	文系理系を問わず全研究科間の学際的・融合的研究が推進されている	海外大学や大学リーグやまぐち関連の大学と連携した大学院生参加の学際的・融合的研究が展開されている

### 主要施策⑨：専門職大学院における理論と実践との架橋教育プログラムの充実

専門職大学院としての教育学研究科と技術経営研究科がそれぞれ担っている、「学校現場における指導的役割を果たす人材の養成」と、「イノベーションを持続的に創出できる人材の養成」のため、高度で複雑な時代のニーズを的確に踏まえた理論と実践の往還をより一層充実させます。

2024	2027	2030
<p>(教育学研究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度認証評価、自己点検評価における評価結果が教職大学院運営に活かされている</li> </ul> <p>(技術経営研究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和9年度のカリキュラム改訂に向けて、改訂の必要性を含めた検討が開始されている</li> </ul>	<p>(教育学研究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和8年度自己点検評価における評価結果が大学院運営に活かされている</li> </ul> <p>(技術経営研究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年度以降の検討を基に、産業界等のニーズを反映した新カリキュラムが施行されている</li> <li>大学として実施されるリカレント教育について、率先して参画されている</li> </ul>	<p>(教育学研究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和11年度認証評価、自己点検評価における評価結果が教職大学院運営に活かされている</li> </ul> <p>(技術経営研究科)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和9年度に改訂されたカリキュラムが継続的にブラッシュアップされている</li> </ul>

## 重点戦略4：多様な価値観や経験、能力を持つ優秀な学生の受け入れ

### 主要施策⑩：入学者の資質能力を多面的・総合的に評価する入学者選抜方法の継続的改善

入学者選抜において、学習成績のみならず、部活動、特別活動や資格取得等、高等学校教育での様々な学びを含めた意欲・能力を評価し、学力の三要素を多面的・総合的に判定します。そのために、入試に関わる調査や高等学校での調査を行い、他大学の動向調査も加えて、大学のアドミッションポリシーと受験生のニーズに合った入学者選抜方法の改善を継続的に実施します。

2024	2027	2030
大学のアドミッションポリシーと受験生のニーズに合った入学者選抜方法の改善が図られている	大学のアドミッションポリシーと受験生のニーズに合った入学者選抜方法の改善が図られている	大学のアドミッションポリシーと受験生のニーズに合った入学者選抜方法の改善が図られている

### 主要施策⑪：柔軟な入試広報活動の展開、多様な学生の受け入れを目指した入試制度見直しの推進

高等学校のニーズに応じて、大学説明会ごとに開催地、内容及びオンライン・ハイブリッドを含む開催方法を柔軟に設定し、入試区分の選択等、対象となる受験者に的確な情報を発信します。また、多様な学生の受け入れを目指し、商業、農業、工業等の専門学科を有する高等学校に対する調査結果に基づいた入試制度の見直しを進めます。

2024	2027	2030
専門学科からの学生の受け入れが促進されている	多様な学科からの学生の受け入れが促進されている	多様な学生の受け入れが促進されている

### 主要施策⑫：大学院の学生受入方針に合致した優秀な学生の獲得

入学時・修了時の調査や修了者に対する追跡調査を継続して実施し、大学院生の受入状況を定期的に総括し、入学者選抜方法を改善して、優秀な学生の獲得に努めます。

2024	2027	2030
大学院の広報活動の充実と入学者選抜方法が改善されている	海外協定校も対象とした大学院の広報活動の充実と入学者選抜方法が改善されている	特に大学院博士課程の広報活動の充実と入学者選抜方法が改善されている

## 重点戦略5：学生支援体制の充実

### 主要施策⑬：困りごと・悩みごとを持つ学生等、全学生に対するキャンパスライフ支援の強化

学びのケアから心身のケアとサポートまで、学生の大学生活をあらゆる面で支える相談・支援体制をより充実させ、すべての学生が安心して学べるようにキャンパスライフの質的向上を推進します。

2024	2027	2030
多様化する学生の悩みに対して、夜間や休日等でも対応可能な体制の基盤作りがなされている	学生が安心して学生生活を送ることができる学生支援体制が充実されている	分散している相談窓口が集約され、多種多様な学生相談のワンストップが可能な相談体制組織が編成されている

### 主要施策⑭：学生の自主性・自律性を促すための特色ある正課外活動の組織的支援の強化

自主的・自律的に学び続け、自身を継続的に成長させる能力を育成するために、部活動、ボランティア活動や、特色ある正課外教育である「おもしろプロジェクト」等の学生の自主的活動に対する組織的な支援をより一層強化します。

2024	2027	2030
学生3自治会（体育会、文化会、大学祭実行委員会）がコロナ禍前と同様に、配下の活動団体・構成員をまとめ、代表機関として十分に機能するようになっている	学生の自主活動を取りまとめるネットワーク組織が構築され、山口大学の学生団体代表として、周辺地域社会や外部組織と交渉できる力を持つようになっている	学生の自主活動ネットワークが山口大学の学生団体代表として、課外活動全般を主体的に取りまとめられるようになってきている

### 主要施策⑮：社会的・職業的自立に向けた学生のキャリア形成支援体制の拡充

変化が激しく予測不可能な時代をしなやかに生き抜き、社会的・職業的自立を実現するために、キャリア教育、地域の産業界や自治体等と連携したインターンシップを推進し、大学院におけるキャリアパス支援を行う等、学士課程から博士課程まで一貫したキャリア形成支援の充実を図ります。同時に、卒業生や修了生を含む社会人のリカレント教育を拡充します。

2024	2027	2030
学生のキャリア形成支援をトータル的にサポートすることが可能な「キャリアセンター（仮称）」が設置されている	キャリアセンターによるサポート内容を拡充することによって、在学生のみならず、社会人向けのリカレント教育やリスキリングの充実が図られている	キャリアセンターの種々のサポート内容について、継続的に取り組むようになってきている



## 研究ビジョン

様々な社会ニーズの変化にしなやかに対応し、イノベーションをもたらす知を創出し続けます。そのために、総合大学の強みを活かして学際的な知を集め、産学公の連携により、地域活性化に繋がる産業拠点の形成に寄与できる地域イノベーション・エコシステムの構築を図るとともに、世界をリードする研究領域を創造します。

### 重点戦略1：地域イノベーション・エコシステムの構築

#### 主要施策①：地域の課題解決に向けた「やまぐち型地域共創システム」の構築

地域課題と大学保有のシーズを基に、産学公で共有した地域ビジョンの観点から研究開発プロジェクトを創出し、適合性評価を経て、地域を実証フィールドにした研究開発を行い、その成果を事業化に繋げる「やまぐち型地域共創システム」を構築します。

2024	2027	2030
やまぐち型地域共創システムのフェーズ1が適切に機能している。すなわち、地域から上がってくる個々のウォンツと大学保有のシーズが定期的に地域ビジョンの観点から棚卸しされており、解決すべき地域課題の絞り込みに必要な情報が整理され、常に活用できる状態にある	やまぐち型地域共創システムのフェーズ2（テーマ創出・適合性評価）とフェーズ3（研究拠点での実装化研究）が適切に実施されている	POCを達成し、フェーズ4（事業化および教育現場への展開）に進展する研究開発プロジェクトが次々と生まれ、次世代イノベーションエコシステムが形成されている

#### 主要施策②：トップダウン型産学公連携研究拠点の整備

「やまぐち型地域共創システム」から生まれた研究開発プロジェクトの中から、継続的に顕著な社会的インパクトの創出が期待できるプロジェクトをトップダウンで認定し、人材・知・資金が循環する地域イノベーション・エコシステムの中核拠点として整備します。

2024	2027	2030
認定した全てのトップダウン型産学公連携研究拠点が順調に研究開発を実施している	トップダウン型産学公連携研究拠点が期待通りの成果を上げており、大学全体の教育・研究力向上に貢献している	地域をフィールドとした複数の産学公研究拠点群による実装化研究が定着し、地域のイノベーション創出力が格段に向上している

#### 主要施策③：地域企業・自治体等との包括連携の強化・拡大と大学発ベンチャーの創出機能の強化

地域イノベーション・エコシステムの基盤を強固にするために、地域企業・自治体等との包括連携の強化・拡大を行うと同時に、ギャップファンドを創設する等、大学発ベンチャーを次々に生み出すための機能を強化します。

2024	2027	2030
包括連携協定を締結している地域企業・自治体が「やまぐち型地域共創システム」のメインプレイヤーとして活発に活動している	多数の新たな地域企業や自治体が「やまぐち型地域共創システム」のプレイヤーとして活躍している	研究拠点から次々と大学発ベンチャーが生まれ、新たなイノベーションモデルが創出されている

## 重点戦略2：世界をリードする研究領域の創造

### 主要施策④：大学附属研究所の充実と新設

本学の特色である時間学研究所における文理融合の研究活動を発展・進化させるため、多岐に渡る学内外の研究者の新規参画を進め、研究組織を充実させます。また、トップダウン型産学公連携研究拠点等の独創的研究に重点支援を行い、世界をリードする大学附属研究所新設へと導きます。

2024	2027	2030
時間学研究所が本学の文理融合研究のフロントランナーとして総合知の創出を先導している。また、新設した大学附属研究所が新しい成果を生み出し始めている	新設した細胞デザイン医科学研究所（仮称）が細胞デザイン医学分野で世界をリードしている。また、ステージ3の研究拠点群からステージ4の大学附属研究所に複数昇格し、新たな成果を生み出し始めている	複数の大学附属研究所が切磋琢磨することにより重層的な世界トップレベルの研究を行い、イノベーションの源泉となる叡智を次々に創出している。また、これらの大学附属研究所群が山口大学の顔となり、山口大学の研究力向上を強力に牽引している

### 主要施策⑤：研究拠点の組織改革

研究分野の選択と集中による研究拠点の大胆な組織改革を行い、世界レベルの研究競争力・産学連携力を有するグローバルニッチトップ研究拠点を創出します。

2024	2027	2030
グローバルニッチトップを目指す拠点として選定され、大胆な組織改革を行った研究拠点がインパクトの高い研究成果を生み出し始めている	経営リソースを重点投資した研究拠点の中から世界レベルの研究競争力もしくはイノベーション創出力を有するグローバルニッチトップ研究拠点が生まれている	グローバルニッチトップ研究拠点が複数存在し、大学附属研究所もしくはイノベーションエコシステムの中核拠点を目指して競い合っている

### 主要施策⑥：多様な臨床データの活用によるAIシステム医学研究領域の創造

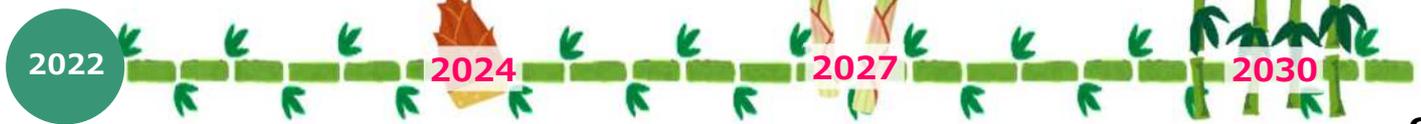
AIシステム医学・医療研究教育センターを充実させ、附属病院の電子カルテ、各診療部門システムから得られる多様な臨床データを最大限に活用して、医用AI技術を研究開発し、新しいAIシステム医学研究領域を創造します。

2024	2027	2030
<ul style="list-style-type: none"> <li>医療データに基づき治療効果の予測、リスク因子や有害事象の予測・精度の高い診断などを支援する医用AIの開発を継続している</li> <li>電子カルテ内の自由記述文章を活用するための自然言語処理技術の応用方法について検討している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医療データに基づき治療効果予測・、リスク因子や有害事象の予測・精度の高い診断などを支援する医用AIの開発を継続している</li> <li>電子カルテ内の自由記述文章を活用するための自然言語処理技術に基づく基盤プラットフォームのプロトタイプを開発している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>すべての人の健康と福祉の実現への貢献を目標に、様々な関連領域の研究者との共同研究を推進している。医用AI技術を医療現場の労働環境の改善に応用している。さらに、学外パートナーとの連携を強化し、国内外の医療問題の解決を目指していく</li> </ul>

### 主要施策⑦：山口大学版テニュアトラック制度の拡充

創造性豊かな若手研究者を育成するために山口大学版テニュアトラック制度を拡充し、魅力ある研究環境を創出します。

2024	2027	2030
強みと特色ある研究領域でテニュアトラック教員が創造性豊かな研究を活発に行っている	山口大学版テニュアトラック制度により育成された研究者の中から独創的で世界をリードする研究成果を創出する卓越研究者が生まれ始めている	山口大学版テニュアトラック制度により育成された研究者が附属研究所あるいは研究拠点のリーダーやコアメンバーとして世界をリードする研究領域の創造に大きく貢献している



## 重点戦略3：価値創造の源泉となる学際的基礎研究の推進

### 主要施策⑧：学際的基礎研究グループの支援強化

基礎研究の卓越性と多様性を強化するために学際的基礎研究を行う研究推進体について、評価方法や支援内容の見直し・改善を行いながら、充実した支援を行います。

2024	2027	2030
研究推進体から独創的な学際的基礎研究グループが生まれている	学際的基礎研究グループから将来の山口大学の価値創造の源泉となる優れた研究成果が生まれ始めている	学際的基礎研究グループから将来の山口大学の価値創造の源泉となる優れた研究成果が次々に生まれている

### 主要施策⑨：重点連携大学との共同研究の支援強化

研究分野を主体とした重点連携活動を強化するとともに、多様な教育支援及び国際貢献を目的として選定している重点連携大学について、選定基準と支援内容等の見直しを行いつつ支援を充実させ、国際共同研究をより強化します。

2024	2027	2030
国際重点連携大学との組織対組織の共同研究が実施されている	国際重点連携大学との組織対組織の共同研究から将来の山口大学の価値創造の源泉となる優れた研究成果が生まれ初めている	国際重点連携大学との組織対組織の共同研究から将来の山口大学の価値創造の源泉となる優れた研究成果が次々に生まれている



## 重点戦略4：優れた研究成果を多く生み出すための研究基盤の整備・充実

### 主要施策⑩：総合科学実験センター施設の合理化によるサービス向上

社会の変化と技術の高度化に対応して、総合科学実験センターにおける施設の管理システムの改善、センター全体の合理化を推進することで、研究者支援のための施設、研究設備・機器、技術及びサービスを向上します。

2024	2027	2030
総合科学実験センターの研究設備・機器、技術及びサービスが向上している	総合科学実験センターの研究設備・機器、技術及びサービスが格段に向上し、研究者の満足度が高まっている	研究者の総合科学実験センターに対する満足度が非常に高く、優れた研究成果を多く生み出すために本センターが大きく貢献している

### 主要施策⑪：研究設備・機器共用化システムの高度化

研究DXの推進によりすべての研究情報を繋げ、共用機器のコストと成果の見える化、利用料金の共通ルール化等を行います。同時に、新規導入・更新等の際の選定基準となる「共用化指標」等により研究設備・機器への投資効果の見える化を推進することで、研究設備・機器共用化システムの高度化を実現します。

2024	2027	2030
全ての利用者が研究設備・機器共用化システムに全てのコアファシリティと準コアファシリティの予約・実績を完全に入力している。このことにより、コアファシリティと準コアファシリティの投資効果の見える化が出来ている	全ての利用者が研究設備・機器共用化システムに全ての全学共用機器の予約・実績を完全に入力している。このことにより、全学共用機器の投資効果の見える化が出来ている	エビデンスに基づいて研究機器の導入・更新・保守が戦略的に実行され経営資源（人、物、金、情報）が好循環している

### 主要施策⑫：機器共用促進や技術職員の高度化による研究者支援体制の充実

技術職員の高度専門技術修得の支援を強化すると総合技術部が連携して、研究設備・機器の共用を促進し、技術職員の高度専門技術修得の支援を強化することで、研究者への支援体制を充実します。

2024	2027	2030
リサーチファシリティマネジメントセンターが機器共用の中央司令塔として機能している。また、技術職員が高度専門技術者集団として大学の研究力向上に貢献している	リサーチファシリティマネジメントセンターが機器共用の中央司令塔として適切に機能している。また、技術職員が高度専門技術者集団として大学の研究力向上に大きく貢献している	リサーチファシリティマネジメントセンターが機器共用の中央司令塔として適切かつ強力に機能している。また、技術職員が高度専門技術者集団として研究者から厚い信頼を得ている

## 重点戦略5：持続可能な社会への貢献

### 主要施策⑬：山口大学グリーン社会推進研究会への積極的支援

山口大学グリーン社会推進研究会へ積極的に研究資金等の支援を行うことにより、研究会から革新的な脱炭素技術やグリーン社会システム等を創出し、SDGs達成に貢献します。

2024	2027	2030
<p>教員と企業・自治体会員との交流が深まっており、産学公連携による研究開発について議論している</p>	<p>トップダウン型研究拠点で山口でしかできない産学公連携による、ご当地オンリーワン研究開発プロジェクトを実施している</p>	<p>世界をリードする革新的脱炭素技術を開発するとともに世界モデルとなるグリーン地域社会システムの実証を行い、SDGs達成に貢献している</p>



## 地域ビジョン

しなやかに地域で活躍できる人材を輩出するとともに、企業や教育機関、行政機関と協働し、知の拠点として地域のシンクタンク機能を果たすことで、地域の抱える課題の解決に寄与し、地域のステークホルダーに頼られ必要とされる、魅力あふれた大学を目指します。

### 重点戦略1：地域社会や国際社会で活躍する人材の育成

#### 主要施策①：地域社会から期待されるシンクタンク機能の強化

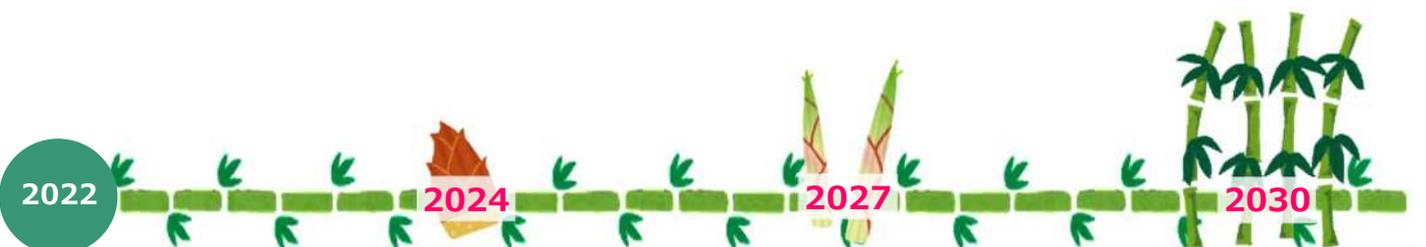
地域未来創生センターのヘッドクォーター機能を強化し、部局を横断した教育プログラムや研究グループを組織化し協働することで、「地域連携プラットフォーム」における中心的役割を果たします。

2024	2027	2030
地域からの地域未来創生センターを経由した教育プログラムや共同研究の依頼手順が定着し、一般化する	地域未来創生センターが関与した、地域からの依頼による部局間を超えた教育プログラムや研究グループの活動が一般化する	複数の部局を横断したりリカレント・リスキリング教育プログラムや山口学などの文理融合共同研究プログラムの活動が常態化する

#### 主要施策②：ステークホルダーとのコミュニケーション促進のための学内情報の一括管理

各部局が個々に保有している学生、卒業生及び保護者、教育組織、地方自治体、企業等、大学を取り巻く多様なステークホルダー情報を一括に管理します。これにより、ステークホルダーと大学双方向のコミュニケーションを円滑化し、多様な媒体や機会を通じて本学に対する理解の向上を目指します。

2024	2027	2030
それぞれの部局が保有しているステークホルダー情報の内容・ボリュームが把握できている	各部局が保管するステークホルダー情報がクラウド上に移行し、一体的に保管できている	ステークホルダー毎のIR情報を利用し、よりスムーズなコミュニケーションが取れるようになる



## 重点戦略2：地域共創拠点の整備

### 主要施策③：イノベーション・commonsの創設

地域課題解決のために、キャンパス全体をイノベーション・commonsとして整備し、地域企業でのPBLやPBI、キャリア教育を通じて学生と地域の自治体や企業との交流を図り、「地域連携プラットフォーム」での地域課題と大学資源のマッチングを支援する環境を作ります。

2024	2027	2030
地域連携プラットフォームが機能し、地域課題と大学リソースのマッチングがで き始める	SPARC事業などを通じて、 地域課題解決のための具 体的なPBLプログラムが開始 されている	3キャンパス（吉田キャン パス、常盤キャンパス、小 串キャンパス）がイノベー ションcommonsとして連 携・機能する仕組みができて いる

### 主要施策④：地域課題解決のための「地域連携プラットフォーム」と「共創の場」の構築

地方自治体との包括連携協定を発展させ、産学公が参画する「地域連携プラットフォーム」を構築し、プラットフォームで検討された様々な地域課題に対する「共創の場」を設定し、協働して具体的な課題解決を目指します。

2024	2027	2030
山口市と宇部市の地域連携 プラットフォームが機能し、 それぞれの市が抱えている 地域課題の解決ができている	地域連携プラットフォーム を美祢市、長門市、萩市、 防府市の中のひとつ以上の 市で実施すると共に、他の 県内自治体との新たな包括 連携協定を結ぶ	2020年時点で包括連携を結 んでいる県内8市町との連 携プラットフォームを一部 グループ化しながら複数個 構築することで、地域課題 解決のための共創の場が構 築できている

### 主要施策⑤：県内の大学図書館のネットワーク化によるコミュニケーション機能の強化

デジタルコミュニケーションツールを活用し、学内の3つの図書館の活動の場所（アカデミック・フォレスト）や県内の大学図書館をオンライン接続し、学生と研究者が教育・研究成果を発表したり地域社会と交流できる場として整備することで、地域に開かれた図書館を目指します。

2024	2027	2030
デジタルサイネージを山口 大学の3つの図書館に設置 し、ネットワークを利用し たテスト運用を行う	学内の図書館のネットワ ーク化したデジタルコミュニ ケーションツールによる教 育・研究コンテンツを幅広 く共有する	デジタルコミュニケーション ツールを利用して、県内 の他大学とのネットワー ク化を図り、研究・教育コ ンテンツの共有によって強化 した交流を行う



## 重点戦略3：地域の持続的発展に寄与する人材育成

### 主要施策⑥：大学間の事業連携による人材育成

教育理念や設置の目的、設置形態及び規模等が異なる山口県内の大学が連携し、教育研究の強み及び特色ある教育リソースを相互に補完することで、単独の大学では成しえない教育研究の高度化・多様化・国際化を実現し、地域が必要とするしなやかな人材の育成に貢献します。

2024	2027	2030
山口大学、山口県立大学、山口学芸大学が大学等連携法人を設立し、山口地域が必要とする高等教育人材を明確化するために産学公金のプラットフォームを設置し、SPARC教育プログラムで育成する人材像を明確化する	大学等連携法人を設立した山口大学、山口県立大学、山口学芸大学が学部改組および教育課程の見直しを行い、文系DX人材の育成が開始できている	SPARC教育プログラムが充実し、地域が必要とする人材の育成に目途が立ち、3大学以外のより広範囲の県内大学との共創ができ始めている

### 主要施策⑦：産業構造転換に対応する人材育成のための社会人リスティング教育プログラムの充実

産業構造の転換やグローバル化の進展等に伴う地域や社会のニーズの変化に対応するため、専門的知識・技術・技能を身に付け、キャリアアップを目指すための社会人リスティング教育プログラムを拡充します。

2024	2027	2030
地域が抱えるリカレント、リスティング教育のニーズが大まかに把握できている	特定の企業に対するオーダーメイド型のリスティング教育プログラムが提供できる	いくつかのオーダーメイド型リスティング教育を充実することにより、それらを組み合わせたセミオーダー型リスティング教育プログラムが充実する

### 主要施策⑧：新産業高度人材育成と高大連携教育プログラムの充実

ICT活用やDXの推進による知識集約型産業を支える新産業高度人材を育成するため、普通科高校との高大連携事業を充実させます。商業、農業、工業等の専門学科を有する高等学校に対して、大学進学等との選択の可能性を広げるためのキャリア教育プログラムを推進します。

2024	2027	2030
専門学科を有する高等学校の生徒に大学進学も選択肢の一つであることを認識してもらう	県内の専門学科を有するいくつかの高等学校の生徒に対し、大学進学のメリットを実感してもらうための情報発信ができている	県内の専門学科を有する高等学校の生徒の多くが、大学進学も自分の進路のひとつであると認識できるようになる

### 主要施策⑨：地域における教育人材育成

教育学部附属学校でデザインされた授業モデルや開発した先進教育プログラムを、地域の初等・中等教育の先生方に積極的に提供することで、地域に根差した教育人材のキャリア開発を支援します。

2024	2027	2030
地域の教員が、附属学校園主催の「令和の日本型教育」に関する研修会を受講して、教員自身の授業に活用できる	地域の教員が、教員自身の授業（単元）をデザインするために、附属学校園主催の対面・オンライン・オンデマンド研修会を組合せて受講して、教員研修履歴管理システム上で研修ポートフォリオを作成することができる	地域の学校が、小中一貫教育を実施するために、附属学校園主催の対面・オンライン・オンデマンド研修会を組合せて受講し、小中一貫教育の見方・考え方を踏まえた教科等のカリキュラムが作成できる

## 重点戦略4：地域学の研究拠点としての教育研究・文化振興への貢献

### 主要施策⑩：多様な「知」と地域課題を関連づけた新しい「山口学」の構築

山口県の自然、文化、産業等に関する文理融合研究を推進してきた「山口学」を他大学の研究者にも公開し、学内研究者と県内外の研究者が持つ多様な「知」を地域課題解決に関連づけることで新しい「山口学」に進化させます。

2024	2027	2030
毎年の山口学の募集が通年化する	山口学募集対象を学内から学外研究者へ拡張することにより、山口を研究フィールドとした研究者が増加する	山口学に参加している研究者による地域課題解決事例が増えてくる

### 主要施策⑪：貴重学術資料のオープンアクセス化の推進

図書館が所有する貴重学術資料を教育・研究に活用するため、国際的な画像共有規格に準拠したデジタルコレクションで登録・公開するとともに、オープンアクセス化を推進します。

2024	2027	2030
貴重資料指定資料のデジタル化と公開	公開コンテンツの拡大と利用促進	貴重学術資料のオープンアクセス化の最適化

## 重点戦略5：安全・安心な地域社会実現への貢献

### 主要施策⑫：新産業高度人材育成と高大連携教育プログラムの充実

健康長寿社会、防災・環境、新興感染症の拡大等に関する教育・研究やDXの普及、大学の危機管理体制等、地域連携プラットフォームを通じて、大学の総合知を地域の行政、企業、住民に還元し、安全で安心して暮らせる地域の実現に貢献します。

2024	2027	2030
地域課題としての健康長寿社会維持、新興感染症拡大防止、防災・環境保全に関する総合知としての大学の協力体制を確立する	地域課題としての健康長寿社会維持、新興感染症拡大防止、南海トラフ地震や県内の活断層の活動状況の理解が進展し、大学の総合知を地域に還元するシステム作りができています	地域連携プラットフォームを通じて健康維持や新興感染症対策、南海トラフ地震や県内の活断層の活動状況の理解し、地域の行政に対して様々な情報サービスの提供ができています

### 主要施策⑬：地域医療を先導する拠点病院機能の充実

医学部附属病院は、山口県唯一の特定機能病院、地域の中核医療機関として、行政機関と医療機関・教育機関との連携を推進し、安定した地域医療体制を充実させるとともに、高度な医療人材、地域に求められる医療人を育成します。また、DXによる医療支援、病院機能の向上に継続的に取り組み、質が高く、安全な医療を提供します。

2024	2027	2030
<ul style="list-style-type: none"> <li>令和5年度に受審する病院機能評価の評価結果を病院運営に活かしている</li> <li>令和6年度より適用される“医学教育・モデル・コア・カリキュラム”に定められた“医師として身に付けるべき資質・能力（学修目標）”が身に付くカリキュラムを構築し、全ての医学部の卒業生が学修目標を身に付けている</li> <li>自己点検・評価における評価結果を病院機能の向上に活かしている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己点検・評価における評価結果を病院機能の向上に活かしている</li> <li>地域医療を支える高度な医療人材の育成機能の強化を図っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特定機能病院に係る基準の遵守状況を多職種で点検しながら公平で適切な管理運営を継続することで、地域からの信頼と期待に応えられる医療を実践している</li> </ul>

## ダイバーシティビジョン

ダイバーシティを活力の源泉とし、すべての学生・教職員が性別、年齢、障害、民族、性的指向や性自認等に関わらず、それぞれの個性と能力を安心して発揮し、繋がり、活躍することにより、多様な知が共奏するダイバーシティキャンパスを創造します。

### 重点戦略1：学生・教職員の多様なニーズへの支援

#### 主要施策①：障害が修学の妨げにならない、個々人の状況に応じた学生支援の充実

障害の種類や程度、個々人の状況によって異なる修学上の困難やニーズに応じた効果的な支援を行うため、教職員の研修機会をより充実し、全学の学生特別支援組織と各部局との連携を一層深めます。同時に、施設のユニバーサルデザイン化も進めます。

2024	2027	2030
近年のニーズの増加・多様化に幅広く対応するための知識やスキルを学ぶ研修機会が充実され、多様なニーズに対応するための学生支援機能・関連部署間の連携体制が拡充されている	大学組織として恒常的な多様なニーズに関する知識や理解・スキルの拡充が図られている	循環型支援体制の構築を目指した、研修や人材育成事業と障害学生修学支援との連動が強化されている

#### 主要施策②：多様な性的指向や性自認（SOGI）が尊重されるキャンパスの実現

本学SOGIガイドラインに定めた基本理念に基づき、多様な性的指向と性自認が尊重されるキャンパスづくりを進めるため、施策内容についての見直しを継続的に行い、取組を徹底するとともに学生・教職員に対する定期的なイベントや媒体による意識啓発を実施します。

2024	2027	2030
教職員だけでなく、学生のSOGIに関する意識が「多様なSOGIが尊重されるキャンパス」に活かされている	教職員の同性婚に対して、異性婚と同様の対応（結婚休暇・結婚25年休暇）が実現している	教職員がSOGIに関するアンコンシャスバイアスに気づくことができる環境が整っている

#### 主要施策③：留学生にとって魅力あるプログラムやワンストップサービスの充実

安心して学べる留学先となるため、学部・研究科での専門性を活かしながら交流できる共創教育プログラムや英語による授業等の交換留学生や短期留学生に向けた教育プログラムを充実させます。また、留学生からの相談の総合窓口（ワンストップサービス）として、留学生の渡日前後のサポートを充実させ、留学生や地域から寄せられる課題の解決やインターンシップを含む企業への就職支援に取り組みます。

2024	2027	2030
学生を引き付ける教育プログラムと安心して学べる環境の形成に着手している	学生を引き付ける教育プログラムと安心して学べる環境の形成が全学規模で進められている	学生を引き付ける教育プログラムと安心して学べる環境形成のさらなる改善に着手している

#### 主要施策④：留学生や外国人研究者への支援と信条の自由への配慮

留学生や外国人研究者の生活面やメンタル面の支援を行い、信条の自由への配慮を充実させます。さらに、ホームページや学内表示及び文書の多言語化を行い、キャンパスのグローバル化を促進します。

2024	2027	2030
外国人留学生が安心して学べる・外国人研究者が安心して研究できる環境形成に向けた情報収集ができています	外国人留学生が安心して学べる・外国人研究者が安心して研究できる環境形成の課題解決に着手している	外国人留学生が安心して学べる・外国人研究者が安心して研究できる環境が形成されている

## 重点戦略2：教職員のダイバーシティの推進

### 主要施策⑤：教員人事の全学マネジメントによる女性・若手・外国人教員比率の向上

すべての教員の採用と昇任人事を、学長・理事等で組織する「人事委員会」において管理し、限定公募の実施等、大学全体の人事マネジメントを行うことにより、大学として戦略的に女性・若手・外国人教員比率を高めめます。

2024	2027	2030
<ul style="list-style-type: none"> <li>女性教員比率：19.9%以上</li> <li>若手教員比率：18.9%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性教員比率：21.5%以上</li> <li>若手教員比率：22%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>女性教員比率：22.5%以上</li> <li>若手教員比率：22%前後を維持</li> </ul>

### 主要施策⑥：教職員のライフイベントと仕事の両立促進

教職員が性別に関わりなくライフイベントと仕事の両立ができるように、保育三本柱（長期休暇中の学内学童保育の実施／病児保育の助成／一時保育）を実施します。また、介護と仕事の両立支援として、介護支援を行う学外の専門機関と契約を結び、非常勤職員も含む教職員に対して無料の介護相談等を提供します。

2024	2027	2030
保育三本柱の実施および仕事と介護の両立支援が着実にこなわれている	保育三本柱の実施および仕事と介護の両立支援が着実にこなわれている	保育三本柱の実施および仕事と介護の両立支援が着実にこなわれている

### 主要施策⑦：国際的な視野をもった人材の育成

若手研究者の計画的海外派遣及び職員の海外研修の機会の増加や重点連携大学事業及びクロスポイントメント制度等の活用により、国際的な多様性を促進するための学内の環境を充実させます。また、海外学術機関の研究者との交流を促進して、本学の将来を担う国際的な視野を持った人材を育成します。

2024	2027	2030
国際的な人的ネットワークの形成のため、海外の機関との連携強化をはかっている	国際的な人的ネットワークの形成のため、重視すべき海外機関を認識している	国際的な人的ネットワークの形成がされている

### 主要施策⑧：国際的な社会貢献活動を推進するための意識改革

国際的な社会貢献活動に対する大学全体の意識改革を促すため、各教職員の活動履歴を把握するとともに、国際的な社会貢献活動に対する海外の評価制度に関する情報提供を行います。

2024	2027	2030
世界標準で評価が行える大学に向けて、情報提供と情報収集ができています	世界標準で評価が行える大学に向けて、得られた情報に基づいて改善に取り組んでいる	世界標準で評価が行える大学に向けて、得られた情報に基づいて改善がなされている

## 重点戦略3：学生協働の推進

### 主要施策⑨：学生目線でのダイバーシティ推進活動への支援と協働の促進

ダイバーシティキャンパスをつくる上で、教職員だけでなく学生がダイバーシティの意義を正しく理解し、尊重することが重要です。多様な性的指向や性自認についての理解促進やダイバーシティの推進活動をする学生団体を支援し、協働することにより、学内外の若い世代への啓発活動を促進します。

2024	2027	2030
SOGIの推進団体であるilmaに加えて、山口大学内のダイバーシティ推進に学生の視点で協働する新たな学生団体と、地域の男女共同参画を推進する学生団体が誕生し、それぞれが活動をしている	ilmaを含め、少なくとも3つの学生団体が自主的に活動をおこない、学内外におけるダイバーシティ推進の理解が進んでいる	山口大学のダイバーシティに関連する学生協働の取り組みが地域の他大学にも認知され、大学の枠を超えた学生協働同士の連携が実現している

### 主要施策⑩：学生参画型の広報による情報発信力の強化

大学の取組や魅力を効果的に学内外へ発信するために、広報活動の企画・運営に学生の参画を促し、内容やツール等に学生の感覚や意見を活かした新しい広報活動を展開します。

2024	2027	2030
広報業務に参画する多様な学生を確保し、広報活動に参加・助言するスキームを構築できている	広報活動の企画・運営に学生が参加し、学生が企画する広報活動の支援ができています	学生の目線にも配慮した広報を検討することにより、山口大学の魅力発信ができています

### 主要施策⑪：留学生の学生協働活動への参画促進

留学生が大学運営に関わり、日本人学生や教職員と課題を共に考える様々な機会を設けることによって、留学生の持つ多様な視点や解決策を導入し、ダイバーシティキャンパスに寄与します。

2024	2027	2030
外国人留学生が安心して学べる環境形成に向けた体制作りに取り組んでいる	外国人留学生が安心して学べる環境形成に向けた体制の課題を認識している	外国人留学生が安心して学べる環境が形成されている

### 主要施策⑫：図書館での留学生を含む学生協働によるピアサポートの強化

図書館で活動する学生とそれに直接的または間接的に関わる教職員が意見や情報を交換できる機会を作ります。留学生も含んで課題を共に考えることで、学生協働活動の普及と発展を図ります。

2024	2027	2030
学生協働の実態調査を行いながら、図書館の機能が強化される	調査・検討の結果に基づいて、図書館の学生協働システムが拡張される	拡張した図書館の学生協働を運用・検証する

## 重点戦略4：国際展開の強化

### 主要施策⑬：特色ある分野を中心とした研究活動の発信力強化

重点連携大学を核とした特色ある国際共同研究を推進し、研究活動の発信力を強化します。

2024	2027	2030
強固な国際研究基盤の構築のための重点連携大学事業を実施している	強固な国際研究基盤の構築のため、次期の重点連携大学事業計画がなされている	強固な国際研究基盤の構築ができている

### 主要施策⑭：国際的な価値観の多様性に触れ、新しい知を見出し、知の創出を体感する機会の積極的創出

学生及び教職員が、多様な価値観に触れ切磋琢磨することを目的として、教育においては、海外学術機関と協働する共創教育プログラムを開発、実施し、研究においてはICTを活用した国際シンポジウムの開催を促進することによって問題提起、意見交換、情報発信の機会を増やします。また、留学フェアや説明会等、学生の留学意欲を喚起するための取組を行います。

2024	2027	2030
学生を引き付ける教育プログラムの提供機会・件数が増加している	学生を引き付ける教育プログラムの提供が全学規模に広がっている	学生を引き付ける教育プログラムの提供が安定して行えている

### 主要施策⑮：国際水準の教育の展開による海外機関との連携の拡充

国際認証取得や本学の教育カリキュラムを海外展開する等、国際水準の教育システムの充実を図ります。海外協定大学とのダブル・ディグリーやジョイント・ディグリー・プログラム等を進めることにより、国際水準の教育を提供します。

2024	2027	2030
大学の強みを生かした教育プログラムの提供のため、ジョイントディグリー、ダブルディグリーの充実に着手している	大学の強みを生かした教育プログラムの提供のため、ジョイントディグリー、ダブルディグリー制度がより充実している	大学の強みを生かした教育プログラムの提供のため、充実したジョイントディグリー、ダブルディグリー制度が構築されている



## 主要施策⑯：海外オフィス、海外同窓会と協働した広報の強化

日本人学生の留学、留学生の受入れ、研究者の交流、国際連携、広報活動等を推進するために連携機関と協力して海外オフィスを充実させます。海外で活躍している卒業生及び元留学生等による海外同窓会活動を充実させ、学生・教職員との交流・協働活動を通じて、継続的でより質の高い国際交流を実現し、国内外への情報発信力を高めます。

2024	2027	2030
海外オフィスの機能強化と研究者コミュニティ拠点の形成に向けた情報収集ができています	海外オフィスの機能強化と研究者コミュニティ拠点の形成のための改善に着手しています	海外オフィスの機能強化と研究者コミュニティ拠点の形成がなされている

## 主要施策⑰：海外からの留学生・研究者に対する図書館サービスの充実

海外からの留学生・研究者が図書館をより便利に使えるように、学生協働制度を活かし、外国語での図書館のオリエンテーション実施、サービス・カウンターでの多言語対応や電子ジャーナルへのアクセスの説明等、サポートを強化します。

2024	2027	2030
海外からの留学生・研究者の図書館に関するニーズ調査を実施する	ニーズ調査を参考にしたサポート・システムが導入される	海外からの留学生・研究者のサポート・システムを実施・検証する



## 経営ビジョン

学長のリーダーシップのもと、戦略的マネジメントと強力なガバナンス体制により、対話と合意を基本としつつ、しなやかな大学経営を行い、すべての学生、教職員が誇りと喜びを持って学修や職務に取り組みます。また、情報公開により透明性を確保し、地域・社会から信頼される大学を創造します。

### 重点戦略1：信頼される大学づくり

#### 主要施策①：適正な大学経営実現のためのガバナンス強化

学長のリーダーシップのもとで、コンプライアンス体制を確立し、ガバナンスを一層強化するため、国立大学法人ガバナンス・コードへの適合状況の確認及び点検を自主的・継続的に行い、結果をホームページ等で公表します。また、点検の過程で明らかとなった課題には学長及び担当理事を中心に対応し、改善します。

2024	2027	2030
学生、各界の代表者、市民などのステークホルダーから適正な大学経営を実施しているとの評価を受ける	学生、各界の代表者、市民などのステークホルダーから適正な大学経営を実施しており、必要な改善を続けているとの評価を受ける	・学生、各界の代表者、市民などのステークホルダーから適正な大学経営を実施しており、必要な改善を続けているとの評価を受ける ・大学のプレゼンスが増し、大学ランキングの向上、外部資金の増加などの成果が出ている

#### 主要施策②：非常時に業務を継続するための体制整備や資源確保の取組

災害時や情報セキュリティインシデント発生時等、業務の継続に影響が生じた場合に、その範囲を最小限にとどめ、国立大学法人としての任務を継続して遂行するための体制の整備や資源の確保を行い、計画的に対策に取り組みます。

2024	2027	2030
災害時や情報セキュリティインシデント発生時でも、国立大学法人としての任務を遂行できる体制が確立されている	災害時や情報セキュリティインシデント発生時でも、国立大学法人としての任務を遂行できる体制の改善が実施されている	災害時や情報セキュリティインシデント発生時でも、国立大学法人としての任務を遂行できる体制の改善が、本学での発生事例や発生につながる予兆的事案、及び他大学での発生事例等を参考に実施されている

#### 主要施策③：学内外の様々なステークホルダーの意見を取り入れた大学経営

経営協議会分科会等を活用するとともに、学生を含めた学内外の様々なステークホルダーの意見を聴く場を設定し、得られた意見を大学運営に反映する仕組みを構築します。また、地域の行事等への協力・参画により、要望やニーズの掘り起こしを行います。

2024	2027	2030
<ul style="list-style-type: none"> <li>学生を含めた学内外のステークホルダーの意見を聴き、大学運営の改善に役立てられている</li> <li>地域の行事等に積極的に参加し、山口県の大学としての更なる理解を得られているとともに、要望やニーズを把握できている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生を含めた学内外のステークホルダーの意見をもとに行った大学運営の改善内容が、ステークホルダーにフィードバックできている</li> <li>地域の行事等に積極的に参加し、山口県の大学としての更なる理解を得られているとともに、把握した要望やニーズを地域貢献に役立てている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>フィードバックした大学運営の改善内容が、ステークホルダーによって活用され、そこからの新たな意見等が大学に伝えられるという循環ができている</li> <li>把握した要望やニーズをもとにした地域貢献の成果が出てという循環ができているおり、その成果をもとにした新たなニーズや要望が大学に届けられる</li> </ul>

## 主要施策④：広報力の強化・充実による本学の魅力発信

教育・研究活動とその成果を大学ホームページのコンテンツとして積極的に発信するとともに、デジタル情報と紙媒体等とのメディアミックスにより、多様なステークホルダーに効果的な広報を積極的に展開し、大学のプレゼンスを高め、ブランド力を強化します。

2024	2027	2030
大学ホームページで機能強化に努め、積極的な情報発信ができています	効果的な広報を検討するため、デジタルと紙媒体との割合、組み合わせ方法などのメディアミックスの仕組み作りができています	デジタル情報と紙媒体等とのメディアミックスにより、多様なステークホルダーに効果的な広報を積極的に展開している

## 主要施策⑤：社会の動向、地域におけるニーズに合わせた柔軟な連携と組織改革

刻々と変化する時代や社会の動向、地域におけるニーズを敏感に捉え、要請に応えるべく教育研究組織、教員組織及び事務組織の再編について柔軟かつ積極的に検討し実行します。さらに学内の教育研究組織間はもちろん、他大学・地方公共団体・企業とのそれぞれの強み・特色を活かした戦略的で有機的な連携を推進し、組織改革等に繋がります。

2024	2027	2030
地域・社会の要請に応え大学の魅力を高めるため、学部・研究科等の組織の枠を超えた教育研究組織の再編及び他大学等と連携した組織改革が進められている	教育研究組織の再編及び他大学等と連携した組織改革について評価が行われ、その効果の確認がなされている	設置した教育組織の卒業生や修了生が活躍し、地域・社会の要請に応えた人材となっている

## 主要施策⑥：客観的指標に基づく点検評価を活用した大学経営

教育研究活動等の質を保証し、より向上させるため、定量的もしくは定性的評価指標の達成状況を検証するとともに、経営協議会学外委員等からの外部意見の聴取等、客観性を担保した自己点検・評価スキームを構築します。このスキームを活用して、定期的、継続的に自己点検・評価や第三者評価を実施し、これらの評価結果を大学経営に反映するとともに、ステークホルダーに広く公表します。

2024	2027	2030
客観的指標による点検と評価が行われ、教育研究活動の質をより高めることができるスキームが構築されており、ステークホルダーへの公表により、外部からの評価が得られている	<ul style="list-style-type: none"> <li>構築したスキームにより、教育研究活動の質の向上が図られ、ステークホルダーに広く公表している</li> <li>外部から良い評価を得ており、健全な大学経営が実行されている</li> <li>スキームの更新に取り組んでいる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>構築したスキームにより、客観的指標による点検と評価を行い、教育研究活動の質の向上が図られ、ステークホルダーに広く公表している</li> <li>外部から良い評価を得ており、健全な大学経営が実行されている</li> <li>スキームの改善が効果を表し、より高い評価が得られている</li> </ul>

## 重点戦略2：教育研究支援機能の充実及び地域貢献促進のためのDX推進

### 主要施策⑦：DX推進に必要なICT基盤の整備・拡充

DXの施策を推進するにあたって、必要とされるICT基盤の計画的な整備・拡充を行います。また、その際には、業務の実行に必要な十分なソフトウェアを導入することや積極的なオープンソースソフトウェアの活用等により、業務の改善、コストの縮減を進めます。

2024	2027	2030
全学のDXを推進・実現するため、必要なICT基盤を拡充・整備が進められている	全学のDXを推進・実現するために十分な、ICT基盤が構築されている	さらにワンランク上のDXを推進するためのICT基盤が構築されている

### 主要施策⑧：IR機能の強化と各種データに基づく意思決定の支援

DX推進により蓄積された情報を活用し、IR（Institutional Research）機能の強化を図ることで、学内の各種情報を分析・可視化し、エビデンスデータに基づく迅速な意思決定と機動的な運営を行います。

2024	2027	2030
IRツールの導入により、学内の情報が個別に分析・可視化され、局所的な改善や戦略立案が可能になっている	IRツールの活用が浸透し、全学レベルでのデータ共有が進んだことで、学内の情報が総合的に扱えるようになり、全学的な戦略立案に役立てることが可能になっている	IRにより立案した戦略を実施して得られたデータを分析・評価し、より進んだ戦略を立てるサイクルが確立し、全学レベルでエビデンスデータに基づく意思決定と機動的な運営が定常的に行われている

### 主要施策⑨：ステークホルダーに対する新たな価値・サービスの創出・再生産を行うためのDX推進

教育研究を含む大学の業務全体の最適化を、データの標準化と共有化により推進し、有効な経営戦略の立案や業務の軽減に役立てます。また、重複業務をなくし、ICTを活用して業務の改善、省力化を進めます。同時に、デジタル技術を活用して情報を可視化し、データに基づく効率化と意思決定により、業務の生産性を高める体制を整え、ステークホルダーへの新たな価値を創出します。

2024	2027	2030
有効な経営戦略の立案や業務の軽減に向けた全学的な組織が構成され、検討が進められている	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学のDXを推進・実現するための、全学レベルでのデータ共有が行われている</li> <li>事務レベルにおいて、全体最適に向けた道筋が立ち、部分的にでもDX実践の効果が表れている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学的なDXが進み、教育、研究、地域貢献の各々について、また総合的にも、ステークホルダーに向けた新たな価値の創出が実行できている</li> <li>データに基づく効率化と意思決定がなされ、業務の生産性向上が実現されている</li> </ul>

### 主要施策⑩：DX推進に必要な人材の育成

情報科学、データサイエンス、経営に関する大学院正規課程への入学や、科目等履修生としての受講を奨励する等、本学の大学院課程や学士課程の教育を活用し、本学におけるDXを推進できる人材を養成します。

2024	2027	2030
大学院正規課程への入学、科目等履修生等として、情報科学、データサイエンス、経営などの学修ができる制度ができている	この制度が認知され、情報科学、データサイエンス、経営などを学修した事務系職員が一定数おり、DX推進に貢献している	この制度で学修した事務系職員が、大学のDXを推進する中核的人物となっている

## 重点戦略3：魅力ある職場環境の構築

### 主要施策⑪：働き方改革の推進とワークライフバランスを重視した魅力ある職場の実現

多様で柔軟な働き方を推進するために、フレックスタイムやリモートワーク等の制度を導入するとともに、業務の洗い出しやデジタル技術の活用等による業務の効率化と平準化を図ることで、時間外勤務縮減や休暇取得促進に繋げ、働きやすい魅力ある職場環境を構築します。

2024	2027	2030
多様で柔軟な働き方の実現や、働きやすい魅力ある職場環境が構築され、時間外勤務時間の縮減（2021年度比5%減）及び年次休暇の取得日数の増（2021年度比5%増）が達成できている	多様で柔軟な働き方の実現や、働きやすい魅力ある職場環境が構築され、時間外勤務時間の縮減（2021年度比10%減）及び年次休暇の取得日数の増（2021年度比10%増）が達成できている	多様で柔軟な働き方の実現や、働きやすい魅力ある職場環境が構築され、時間外勤務時間の縮減（2021年度比15%減）及び年次休暇の取得日数の増（2021年度比15%増）が達成できている

### 主要施策⑫：本学の人的資源を最大限に生かした魅力ある職場の実現

若手教員に早期に教授職を付与する制度や、大学戦略に応じた優秀な人材の確保及び育成のためのテニュアトラック制度の活用により、優秀な若手研究者の雇用を促進し、魅力ある職場づくりに取り組みます。また、教員以外の職員においては、職務に必要な能力の明示、専門性に優れた職員の採用、再雇用職員の再配置等を図ることで、人的資源を最大限に活かせるよう、人材配置を最適化します。

2024	2027	2030
<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀な若手教員の雇用を促進し、第4期中期目標期間中（令和9年度末）に若手教員数1割増に向けた取り組みが行われている</li> <li>・若手教員に対し早期に教授職を付与する制度等を活用し、若手教員がより意欲的に研究に取り組み、活躍できる環境づくりを整備している</li> <li>・豊富な知識、技術、経験等を持つ職員が最大限活躍できる環境づくりを整備している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀な若手教員の雇用を促進し、若手教員数1割増が達成できている</li> <li>・若手教員に対し早期に教授職を付与する制度等を活用し、若手教員がより意欲的に研究に取り組み、活躍できる環境づくりを整備している</li> <li>・豊富な知識、技術、経験等を持つ職員が最大限活躍できる環境づくりを整備している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・優秀な若手教員の雇用を促進し、若手教員比率22%前後を維持している</li> <li>・若手教員に対し早期に教授職を付与する制度等を活用し、若手教員がより意欲的に研究に取り組み、活躍できる環境づくりを整備している</li> <li>・豊富な知識、技術、経験等を持つ職員が最大限活躍できる環境づくりを整備している</li> </ul>

## 重点戦略4：健全な財務体制の確立

### 主要施策⑬：戦略的な外部資金の獲得等財源の多元化による経営の安定化

産業界からの資金等の受入れを進めるため、大学の研究シーズを活用した産学公連携研究拠点の創設や研究支援体制の充実等新たな投資を呼び込む仕組みを構築し、戦略的な外部資金の獲得を図ります。また、適切な資金管理に基づいた収益性の高い資金運用による資金運用益や保有資産の積極的な活用による貸付料収入等により自己収入を増加させ、経営の安定化を図ります。

2024	2027	2030
外部資金の獲得に向けた取組の実施や資産の効果的な有効活用により、戦略的に大学収入を増加させ、財務基盤の強化を図っている	大学収入を戦略的に増加させる体制を整備し、財源を多元化している	多様な財源の確保に加え、大学の新たな成長に投資できる予算、アドミニストレーション機能を強化するため、使途制限の無い新たな財源を確保している

### 主要施策⑭：「山口大学基金」への寄附獲得に向けた体制強化

学生の経済的支援、教員の教育・研究環境の充実等を実現するため、これまで以上に積極的な寄附獲得活動を行い基金事務局の体制強化を図ります。

2024	2027	2030
「山口大学基金」への寄附獲得のための体制強化の方針を立案する	「山口大学基金」を戦略的に増加させる体制を整備する	多様な寄附手法の導入により財源を確保し、学生や教員から「山口大学基金」に必要とされる支援を継続的に実施する

### 主要施策⑮：予算の効率的・効果的な執行

部局別決算の「見える化」に取り組み、コスト分析を行い、翌年度の予算に反映させるとともに、DXの推進により業務改善を図りコストの縮減に努めます。

2024	2027	2030
財務分析により予算を効率的・効果的に執行している。また、DX推進に必要な環境を整備している	継続的に財務分析やDXの推進により効率的・効果的なコスト縮減を図っている。また、財務・経営戦略に当たっては、政策の有効性と学内外へのアカウンタビリティとしてEBPMを定着させている	継続的に実施した財務分析やDXの推進により、予算を効率的・効果的に執行している

### 主要施策⑯：先進・高度医療の継続的提供と安定的な病院運営の確立

安全な高度医療の提供のために、医療機器等の整備を計画的に進め、AIの活用等も図りながら業務効率性を重視した安定的な病院運営を確立します。

2024	2027	2030
<ul style="list-style-type: none"> <li>安全な高度医療の提供のため、中央診療施設による医療機器管理を推進し、機器管理の一元化を進めている</li> <li>AI等を活用し、医師の事務作業時間の効率化を図っている</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中央診療施設に管理を一元化しない高額機器についても更新計画を策定している</li> <li>業務効率性を高めるためのAI機器の導入を検討している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>医学部附属病院では、患者・家族・職員を含めたひとり一人の健康と安心、幸福の探求と実現を目指している。更新計画による効果検証、計画の見直し等により、継続的に安全な先端医療の提供を行っている</li> <li>業務効率性を高めるためのAI機器の導入を検討し、診療支援システムの開発と実装化を推進している</li> </ul>